

会 議 録

会 議 録	山陽小野田市地域包括支援センター運営協議会			
開 催 日 時	平成 27 年 3 月 30 日（月）午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分			
開 催 場 所	山陽小野田市役所 3階 小会議室			
出 席 者	特別養護老人ホーム長寿園園長 山陽小野田市民生児童委員協議会会長 厚狭郡医師会理事 小野田医師会理事 サンライフ山陽在宅介護支援センター施設長	上 村 篤 子 河 口 軍 紀 土 屋 直 隆 萩 田 勝 彦 山 高 正 義	高千帆苑在宅介護支援センター管理者 山陽在宅介護支援センター管理者 おのだ在宅介護支援センター 小野田老人ホーム施設長	大塚美和子 高木早苗 中務朋子 山崎照代
欠 席 者	山陽小野田市福祉員の会連絡協議会会長 小野田赤十字在宅介護支援センター係長 山陽小野田市社会福祉協議会事務局長	河 村 和 美 川 村 優 子 中 島 嘉 哉	委員数 出席者数 欠席者数	12人 9人 3人
事務担当課 及び職員	健康福祉部長 高齢障害課主幹 高齢福祉係主査 地域包括支援センター主任	河合久雄 川上公志郎 坂根良太郎 荒川智美	高齢障害課長 地域包括支援センター所長 介護保険係主査 地域包括支援センター主事	兼本裕子 尾山貴子 河上雄治 栗原美里
会 議 次 第	1 健康福祉部長挨拶 2 会長挨拶 3 議題 (1) 平成27年度山陽小野田市地域包括支援センター事業計画について (2) 第6期高齢者保健福祉計画について (3) その他			
会 議 結 果	1 について 健康福祉部長が挨拶を行った。 ○会議成立の報告があった。 ○配布資料の確認があった。 2 について 会長が挨拶を行った。 ○会長が進行をすることとした。			

3について

(1) 平成27年度山陽小野田市地域包括支援センター事業計画について

平成27年度山陽小野田市地域包括支援センターの事業計画について、新規事業を中心に、事務局より説明を行った。

質疑応答については、以下のとおり。

委員： P. 6の認知症予防教室（脳いきいきクラブ）について、2年前から開始し、現在まで4箇所の実施とのものであったが、その状況はどのようなものか。現在も継続されているのか。

事務局： 吉田地と稲荷町で2年前に開始し、南竜王と南若山で昨年開始している。4箇所とも現在も継続して実施されている。

委員： 自治会の住民のみで運営が行われているのか。それとも現在も行政が関わっているのか。

事務局： 開始12回までは、毎回行政が関り、その後は頻度を減らしながら、継続して実施できるよう支援を行っている。半年に1回程度の関りにしていきたいが、現在は、月に1回程度行政が関わっている。

委員： 参加住民の意識について、今後も継続していこうという想いや、キーパーソンになろうという人などが、この取り組みの中で見受けられたか。

事務局： 事業を実施した中で、誰かがキーパーソンになるかではなく、キーパーソンがいる地域で、事業が開始され、現在まで継続されているというのが実情である。具体的には、今まで実施した4箇所とも、脳活サポーターから、自分の地域で実施してみたいという声上がり、地域での賛同者とともに、実施するという形になっている。開始する前には、地域包括支援センター職員が実地にて、事業の内容、目的等を説明し、賛同を得て、実施している。

委員： 今後、地域支援事業の通いの場の設置や、認知症予防対策等がある程度一体的に進んでいくというイメージを持った。その中で、事業が実施された地域から、認知症予防のメニュー等が定着していくというような印象を受けた。

事務局： 将来的に、住民が自主的に継続して実施できる住民運

営の通いの場というものを、自治会ごとに設置することを目標としている。その選択メニューとして、百歳体操や認知症予防というようなものがあり、その中から、自治会ごとに自分たちに合いそうなものを選んでいただき、介護予防が広がっていけば良いと考えている。きっかけを行政が作り、住民が自主的に介護予防を継続して行えるような取組みを実施していきたい。

委員： 百歳体操とは、具体的にどのような体操なのか。

事務局： 体に負荷をかけながら、童謡にあわせて、ゆったりと行う体操であり、手首・足首に装着するサポーターに重りを入れ、負荷をかけられるようになっている。1本2000グラムの重りを自身の心身状態に合わせて、本数を調整している。これによって筋力をつけて、廃用症候群を予防していく。

委員： 脳いきいきクラブとして実施した4箇所の利用者の利用者の年齢や人数等、構成について教えて欲しい。

事務局： 構成については、各地区でばらつきがある。1番少ないところは、脳活サポーターが近所で閉じこもり、認知症等の可能性がある人に声かけを行い、4～5人で実施している。2箇所は、サポーターから自治会長へ声かけを行い、その地区の老人クラブ会長等と話し合っ、立ち上げる事となった。残り1箇所は、もともとサロンを実施していたところで、脳活サポーターが音頭をとり、実施している。

どの地区も、70～80代の利用者が多い。

委員： 脳活サポーター養成講座は、どのように実施されているのか。申込者は、どのような人が多いか。

事務局： 脳活サポーターは、広報で一般募集をかけている。参加者の年齢は、40歳前後から80歳近い人までと幅広い。

委員： 脳活サポーターを受講するには、どうすればよいか。

事務局： 年1回広報に参加募集の掲載をするので、その時に申込をしてから受講となる。

委員： 実施形態は、講義のようなものか。

事務局： 講義を全3回実施している。2回の講義終了後、いきいきデイサービスでの音読実習を行い、最後に3回目の講座を行って終了となる。

委員： 住民運営の通いの場について、老老世帯等で移動手段がない場合の送迎等はどうか。

事務局：住民運営の通いの場について、送迎は考えていない。これまで市が各校区の公民館等で教室等を実施していた時に、移動手段がないという問題があり、その解決策として徒歩でも通うことのできる自治会館等で実施しているからである。もし、広い地域等で、移動手段がなく、通うことが困難な住民がいるのならば、住民相互の助け合いの中で、送迎等を行っていただきたいと考えている。

委員：住民運営の通いの場が、行政等の支援から、埋もれている人を発見し、住民同士で普段の様子等を気に掛けられるきっかけになればと考えている。

(2) 第6期高齢者保健福祉計画について

「資料1. 介護保険制度の見直しの概要」、「資料2. 山陽小野田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について」、「資料3. 介護保険施設及び地域密着型施設の整備計画について」について事務局から、説明を行った。

質疑応答は以下のとおり。

委員：資料1の生活支援サービスの充実の中に、平成30年4月までにコーディネーターの配置、協議体の設置の実施を行うと記載されているが、このことについて、3年間で具体的にはどのように進めていく予定であるのか教えて欲しい。

事務局：平成27年度に、協議体を設置する前段階として、行政のみならず、関係者とも連携した研究会もしくは準備会の設置を予定している。その会の中で、今後山陽小野田市の中で、そのような協議体を設置すべきか、どのような人物がコーディネーターとしてふさわしいかを具体的に決めていければと考えている。

委員：新しい総合事業を実施するにあたり、多様な実施主体が必要になってくると思うが、現在市内に存在するボランティア団体やNPO法人、社団法人等で、活用できるのではないかと考えているものはあるのか。

事務局：まずは、そのような団体の実態を把握することから始めなければならない。実際に、現在市内にあるボランティア団体からも、そのボランティア団体自体も高齢化して来ており、今後機能していくことが困難という話もあ

がっているため、実態をしっかりと把握していかなければならない。

委員：自治会の中で、住民運営の通いの場のような、自主的な組織を作っていくことが、総合事業の多様な実施主体となることを想定しているのだと感じた。

事務局：想定の中には入っていると考える。例えば、住民運営の通いの場も、元気な人向けに自治会で行えば、介護予防事業に入り、また、それを自治会ごとに、要支援程度の高齢者も対象として実施するのであれば、総合事業の多様な実施主体のひとつになる。そういった活動に、行政がどのように関るかというのは、今後、行政も研究していかなければならない。

ただし、多様な実施主体により実施されるサービスは、現在要支援状態の人から、元気だが、環境的に支援が必要な人まで様々な人を網羅していく形になるため、重度の方が必要としているサービスから、軽易な支援まで、多様なサービスを準備しておくことが必要になる。

今後、それを実現するために、様々な意見を汲み上げていく必要があるため、多くの意見、助言等をいただければと考える。

○高齢障害課課長挨拶
課長が挨拶を行った。

－終了－